

# イカナゴ情報 No. 2 (2014年7月)

平成 26 年 7 月 25 日

稚内水産試験場調査研究部 (担当: 美坂) Tel. 0162-32-7166

## 漁獲状況: 6月大型主体, 7月不漁

今漁期における漁獲物サイズ組成の推移を図1に示します。漁期はじめの6月から7月上旬までは体長 23~25 cm の大型魚主体で推移しましたが, 例年, 体長 20 cm 前後の割合が高まる7月中旬以降は漁獲量が極めて少なくなっています (漁獲物が測定できなかった)。

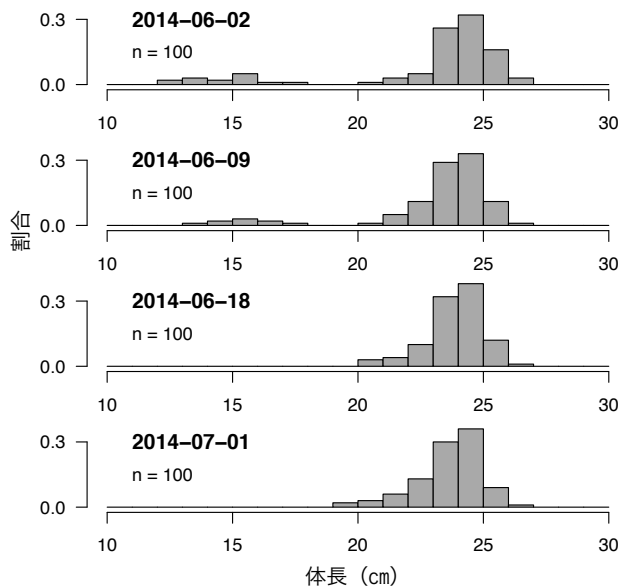


図1. 漁獲物体長組成 (n: 測定尾数)

## 魚探調査: 明瞭な反応は観察されず

2014年6月下旬及び7月中旬に図2に示すラインで実施した魚探調査の結果を図3に示します。6月下旬の調査では, ラインAにおいてイカナゴの群れと考えられる反応がいくつか観察されましたが, 7月中旬の調査では, 各ラインとも昨年同時期の調査で見られたような明瞭な反応は観察されませんでした。

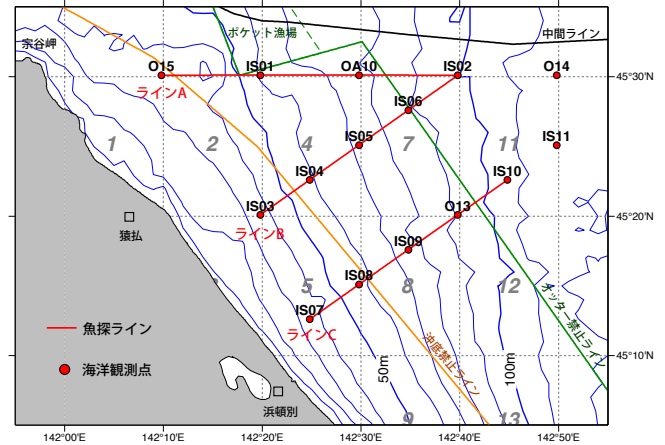


図2. 海洋観測点及び魚探ラインの位置

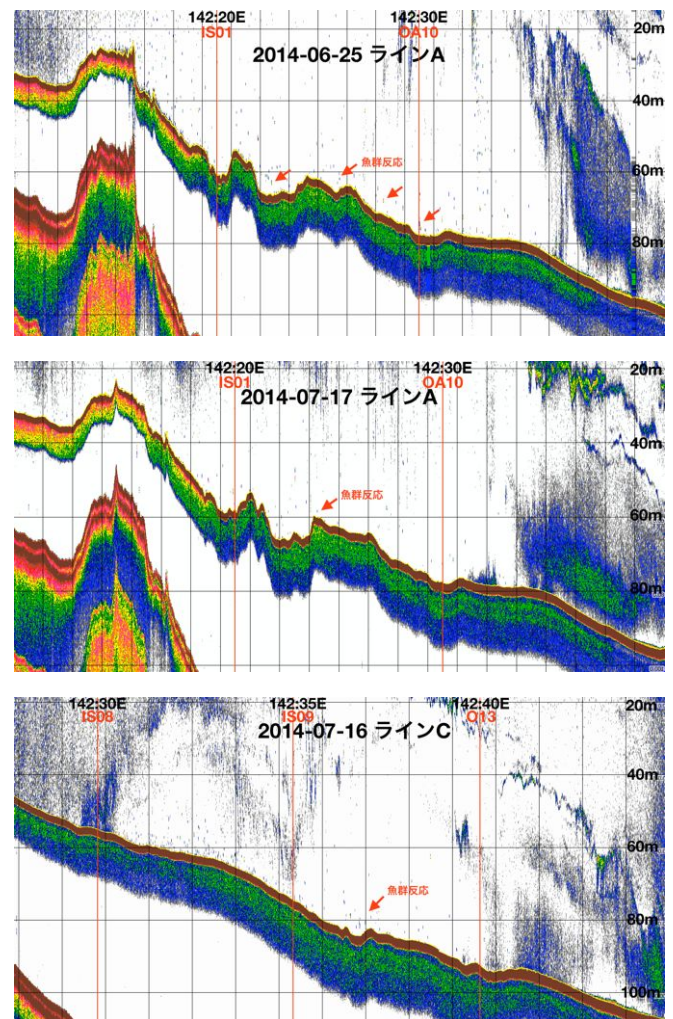


図3. 魚探画像

(反応が見られなかったラインBは省略)

## 水温観測：7月中旬は6月下旬より低下

魚探調査時に観測した水温の断面図を図4に示します。ラインAについて6月下旬と7月中旬を比較すると、深度40m以深では7月の方が低くなっていました。ポケット漁場南側の観測点IS01（水深約60m）における底層水温は、6月下旬には10.4℃でしたが、7月中旬は7.3℃に低下していました。また、7月各ラインの底層水温を水深60m付近で比較すると、IS04は12.6℃、IS08は10.0℃で、IS01の7.3℃よりも高くなっていました。

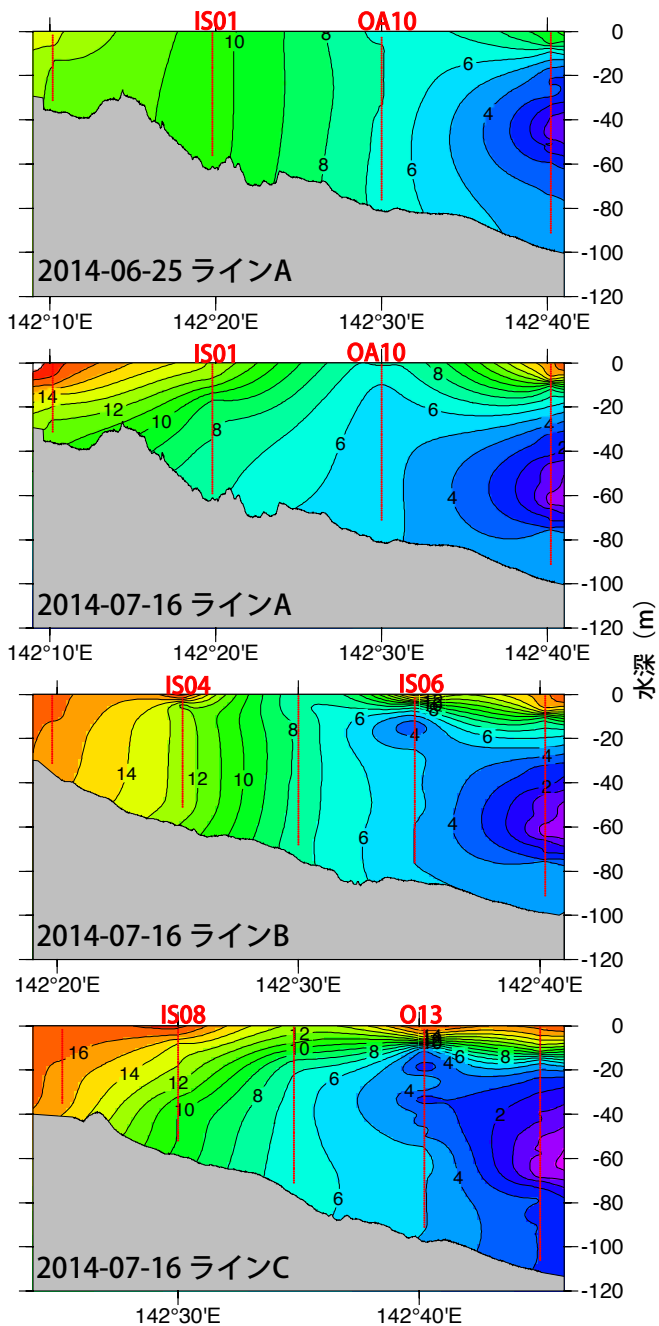


図4. 各ラインの水温断面図

観測点OA10(図2・ラインA上の水深約80m)における2009年以降の底層水温の変化を図5に示します。この図から、漁獲量が最低水準となった2012年の底層水温は漁期を通して低かったこと、早期に終漁した2013年の底層水温は6月上旬に低く、9月に高かったことがわかります。今年については、6月下旬は昨年と同時期より高くなっていましたが、7月中旬は昨年と同時期より低くなっていました。

イカナゴ類の漁場形成には、ここで示したような水温の変動が影響している可能性が考えられますが、この海域の水温は1日の中でも大きく変化していると思われ、現時点では十分な知見がないため、さらにデータを蓄積しながら今後検討していく予定です。

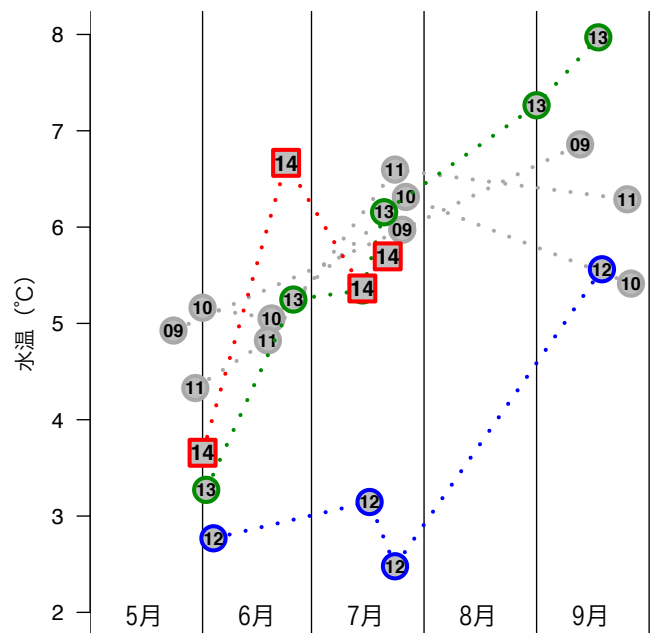


図5. 観測点OA10におけるイカナゴ漁期中の底層水温（2009～2014年）  
プロット内の数字は西暦下2桁